

授業概要

スポーツ活動の目的は個人により異なる。その活動内容は、「する」「見る」「支える」「学ぶ」から「競う」まで多種多様である。スポーツ指導者とは、これらスポーツ活動に取り組む全ての人たちの良き支援者でなければならない。そのために必要となるスポーツの発祥や歴史、国際競技力向上から体罰やパワハラ、スポーツ事故などを取り上げ、その指導論を具体的に論述し、主体的・対話的で深い学びの場となるように指導する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス・授業の概要・現代社会とスポーツ
第 2 回	スポーツの意義と目的
第 3 回	望まれるスポーツ指導者像
第 4 回	スポーツとメディア・産業
第 5 回	スポーツと暴力・ハラスメント・不祥事等
第 6 回	スポーツコーチングとは何か
第 7 回	スポーツコーチングのスタッフとは
第 8 回	スポーツ活動計画の立て方・PDCA サイクル
第 9 回	スポーツの外傷・傷害・障害と応急処置（RICE 法）
第 10 回	東京オリンピック（2020・1964）
第 11 回	我が国のスポーツ振興策
第 12 回	学校における運動部活動と総合型地域スポーツクラブ
第 13 回	グループワーク①
第 14 回	グループワーク②
第 15 回	理想のコーチ像・発表会
第 16 回	まとめ・振り返り・レポート等

到達目標

スポーツの歴史、スポーツのビジネス化が理解できること。スポーツ指導者の倫理（体罰・パワハラ等）・スポーツの安全指導（頭部打撲・熱中症・頸椎の怪我・心停止など）などが理解できること。望まれるスポーツ指導者像が認識できること。

履修上の注意

グループ分けをして、課題を討論するアクティブ・ラーニング形式で授業を進めたい。そのための資料として各自がスポーツに関する新聞記事等を収集し授業の準備をすること。
交通機関の遅れ等のやむをえない場合は、遅刻を認めることがある。

予習・復習

スポーツ活動の報道から問題点や課題を見つけ出すこと。勝敗や試合結果以外の報道に注目し、記事等の内容を分析すること。ドーピング・国籍変更・体罰・暴力・パワハラ・スポーツ事故等の記事にも関心を持つこと。

評価方法

授業に取り組む意欲・態度（40%）学習ノート（30%）ミニテスト（10%）レポート（20%）

テキスト

授業ごとにテーマに沿った授業資料を配付する。